

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	基礎科学実験A		
英文授業科目名	Physics Laboratory		
開講年度	2006年度	開講年次	1年次
開講学期	1(2)学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門基礎科目-必修科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 電子工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	鈴木 勝		
居室	東1-103、106		

公開E-Mail	授業関連Webページ
m-suzuki@e-one.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>(a) 主題</p> <p>「基礎科学実験A」の目的は、基礎的な物理学の実験を通して科学の方法を体得することである。物理の法則を体で体験することによって理解してほしい。いろいろな実験装置に触れ、さまざまな物理量を計測して、実験の手法に慣れることは理工系の学生として必須である。</p> <p>(b) 達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の実験における測定の原理を理解すること。</li> <li>・使用する各種の実験装置と計測器に慣れること。</li> <li>・測定値の処理の仕方（誤差の計算，有効数字の概念）を習得すること。</li> <li>・レポートの作成および論理的な文章の作成に慣れること。</li> </ul>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>

【教科書等】

教科書：『基礎科学実験 A（物理学実験）』

【授業内容とその進め方】

第1回目は実験ガイダンス。履修するものは必ず出席しなければならない。

第2回目から、基礎物理学の分野から用意した実験テーマから各自に割り当てられた5テーマについて、2週間で1テーマずつ行う。第1週目は基礎的課題、第2週目は発展的課題である。各実験テーマの詳細に関しては上記の上記webページを参照されたい。

学期の日程に余裕がある場合には、第2回か3回目の実験を終えた頃に物理量の単位、測定値の処理法、誤差の計算法についての講義を行う。

最終回は、やむを得ず実験を欠席した者に対する補充実験とする。

期末試験の時期に測定値の処理法、誤差の計算法などについての試験を行う。

実験のレポートは、次の実験を行う日の実験開始前にレポート受けに提出する。第1週目の基礎的課題のレポートは必ず発展的課題を行う日に提出して、講評を受けなければならない。この際に基礎的課題のレポートは返却するので、発展的課題のレポートを追加して、次の実験を行う日に提出する。提出されたレポートは、必要に応じ講評する。不備、間違いがある場合には修正、訂正して再提出するよう指示される。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

実験だけ受けてもレポートを提出しなければ評価されない。  
測定して得たデータは直ちに計算して結果を出すべきものである。このような習慣をつけるために、レポートの遅れは減点の対象である。

レポートを評価するときに着目する点を以下に記す。

(1) 実験報告書にふさわしいか。

- 測定して得たデータを適切な単位で記載しているか。
- 単位のある量の計算を正しく処理しているか。
- 必要な誤差の見積もりを行っているか。
- 得られた結果を整理し、検討を加えているか。
- 測定値や計算結果のグラフは適切に描かれているか。
- 全体を通して論理的な日本語の文章であるか。

(2) レポートを遅れずに提出しているか。

- 規定以上遅れたレポートは0点となるので採点の対象にならない。
- 講評で再提出を指示されたレポートは、再提出しなければ評価されない。

各回のレポートは5点満点に、期末試験は5点満点に換算して総計点で成績をつける。

最低合格基準

- ・ 4テーマ(1テーマあたり2通)以上のレポートを提出すること。
- ・ 上述の総計点が20点以上であること。

【レポートは5テーマを出すことを基準とする。また4テーマのレポートを提出しても実験・レポート内容により不合格となりうる。】

【オフィスアワー：授業相談】

月曜日、木曜日、金曜日の午後5時以降にL棟2階の講師室に来れば実験関係者があり、質問を受け付ける。

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

### 【学生へのメッセージ】

物理学の講義が進む前に実験に取りかからなければならないことが多いと思うが、可能な限り実験前やレポート作成時に自分で勉強すること。内容がわかればわかるほど実験は楽しくなる。

### 【その他】